

「同時代」の歴史的経験を現場で体験し、共に生きる糧にしよう！ 生協職員－石巻災害復興支援活動

高橋徳治商店（宮城・石巻）の復興支援活動報告（4月16日）

常総生協本部を午前1時過ぎに出て石巻に着いたのが午前9時ぐらい。石巻の街の中心部はある程度は片付いてきているようですが、海の近くは、ほとんど手付かずのようで荒れ放題でした。高橋徳治商店の工場も津波の影響か外壁が部分的に無くなっていました。まだ、ライフラインは全く復旧していません。その為、清掃予定の工場の中も真っ暗闇。まだ工場の人の中奥深くまでは行けてなくどうなっているか分からないらしい。社長曰く「もし、遺体がでてきたら触らないで。警察にまず見てもらいます」それは結構ドキドキします。工場の中に流れ込んだ様々な物を撤去しつつ、床に堆積したヘドロと油が混ざったようなドロドロを取り除いていく。暗闇の中、ランプで照らしながら少しずつ奥へ進んではヘドロを撤去。ひたすら、ひたむきにその繰り返し。作業を始める前は全く中に入れなかったのに、帰るときには大分奥の方まで行ける様になりました。10数人が5～6時間かけてやっとその程度。高橋徳治商店復活までは、まだまだ先が長いと実感した一日でした。（供給担当 阿部）



石巻にはいるとテレビで見たとおり瓦礫だらけ。塀の上に車がのっているのを見たときは津波のすごさを感じた。高橋さんの工場に到着。およそ20名くらいで作業開始。工場内の泥さらいとの指示を高橋社長からいただき、工場内へ。目を疑った。自分の背丈の2倍以上あるクレーンが倒れていたり隅の方に寄っていたり。当然ライフラインは回復していないので真っ暗。そして、足元にはおよそ5cmのヘドロ。潮の臭いと油の混ざった臭いがマスク越しでもすごく臭った。まるで炭鉱の作業のようだった。およそ6時間、ひたすら重たい泥をすくっては捨て、すくっては捨て。それでも工場の6分の1くらいの広さしか泥はなくならなかった。今回被災地に行き、微々たる加勢だとは思いますが貢献できて良かった。これからも復興の手助けに協力できればと思う。（供給担当 大橋）

私は専務と共に、一足先に栃木県の小堀さんのお宅に向い発電機と貯水タンクをお借りし、その後石巻に向かいました。やはり現地を直接見た時は言葉もないと言うしかない有様でした。この瓦礫の山の中にまだ誰かが取り残されているかと思うと胸が重たくなる思いです。現地の皆さんに「頑張って」という言葉はかけられないのがよくわかりました。港の帯はいまだに手つかずの状態です。船や列車が横倒しになっていたり、街中も道路を通すために瓦礫を左右に寄せただけという印象で、ひっくり返った車や傾いた家が津波の凄まじさを物語っていました。高橋さんの工場周辺はライフラインが復旧しておらず、外壁も一部崩れており、工場内も押し寄せたヘドロも相まって真っ暗でした。持参した発電機でようやく照らされた工場内はヘドロの海でした。これを皆でひたすらすくい取る作業でした。私はその後、洗浄用の水の確保の為に魚住さんら有機農家の皆さんといっしょに旧北上川へ水くみへ向かい、これを使って泥と海水まみれになった生産ライン用の機器を洗ったり、工場内の泥を道路に流す作業などを行いました。15時過ぎまで他の生協さんや有志の方々10数名と一緒に作業をしましたが、それでもほんの一部しか泥は取り除けていません。正直、まだまだ高橋商店復旧には時間がかかると思いました。1日位ではたいしたお手伝いにはならなかったかもしれませんが、少しは高橋さん達の支援ができたかと思えます。（供給担当 田中）



6/11(土) つくば国際会議場 総代会＋被災生産者応援・交流会 復興支援チャリティー映画会 開催

6/11(土)つくば国際会議場に被災生産者を招待

組合員からぜひ一声を！

- 第38回総代会(9:30～11:45) 被災生産者あいさつ含む
- 総代会終了後、12時より大ホール前で交流会
(生産物の販売ができるかは未定)
- 同時開催～復興支援チャリティー映画会 **ぜひ友人お誘い下さい！**
10:30～『フード・インク』
13:30～『ミツバチの羽音と地球の回転』
(16:00～「フード・インク」、17:45～「ミツバチ・・・」再上映)

【チャリティー映画会】チケット申込は中面

入場料（2本通し）

大人 当日 1,500円（前売 1,300円）

高校生以下無料



フード・インク(2010年)

アメリカの食品が作られる過程を映し出し、文字通りフード・インク＝食料生産工場の実態を明らかにして、食品産業の現状に警鐘を鳴らしたドキュメンタリー。



鎌仲ひとみ監督作品
(2010年)

**未来のエネルギーを
どうするのか？**

祝島とスウェーデンで
エネルギーの自立に
取り組む人々の物語

悲しみと絶望を乗り越え、共に生きる希望を。

被災・被曝・汚染を共に引き受け、これから長期のいのちと自然の再建・復興を支える。

産地災害復興支援基金 (1口 500円) No. 467

○注文用紙のこの番号に「1」と記入すると500円、「2」記入で1,000円となります。月次の請求で自動振替させていただきます。

6/11(土)東日本大震災・福島原発汚染 復興支援チャリティー映画会

(映画会の収益は震災・放射能汚染からの再生支援に使わせて頂きます)

ぜひ、お仲間、知人・友人お誘い下さい!

映画の紹介

昼12時~13時半には映画会場大ホール前広場で被災・原発被害生産者との交流・激励会も開催します。

【日時】6月11日(土)
【会場】つくば国際会議場
2F大ホール

フード・インク

(94分 上映①10:30~ ②16:00~)



■食べ物は自分をつくる

根本きこ

食べ物の裏側を知れば知るほど、「なんてこった」と落ち込む。システムに組み込まれている豚や牛や鶏や、「肉」と呼ばれているいきものたちの一生に、一瞬たりとも光はささない。作物の種を牛耳るという権力の暴力。

スーパーマーケットに行けば、そんなシステムが作ったおびただしい量の“食べもの”が、何喰わぬ顔で、整然と並べてある。たまに量販店に行くと、驚くほど買いたいものがない。ファーストフードにこそがときめかなくなったのは、いったいいつ頃からだろう。子どもとテーマパークに行っても、何ひとつ食べさせたいものがなかった。あのときに抱いた虚無感。「なんてこった」。

でも、そうそう落ち込んではいられない。なぜなら、偽物ではなく、本当の“食べもの”を真剣に作り続けている人たちがいるから。本当の食べものとは、草をはむ牛だったり、ちゃんと2本の脚で歩ける鶏だったり、季節に沿った育ち方をしている野菜だったり、そういう当たり前前に生きているものを指す。

映画は、アメリカの食料問題をリアルに撮ったもの。ほとんどの大手食品メーカーは、一切取材拒否。何が何でも隠さなければならない事実がある。そのために、人がひとりやふたり死んだとしても構いなしという狂気の沙汰。大丈夫? アメリカ。大丈夫? アメリカに守られている(基地がある)日本。このままでいいの?

わたしたちに出来ることは、そういう愛のこもっていない“食べもの”を買わないこと。きちんと表示を見ること。地元のものを出れば生産者から買うこと。買い物で世界は変わる。食べものは自分をつくる。(パンフレット COLUMNより)

ミツバチの羽音と地球の回転

(135分 上映①13:30~ ②17:45~)



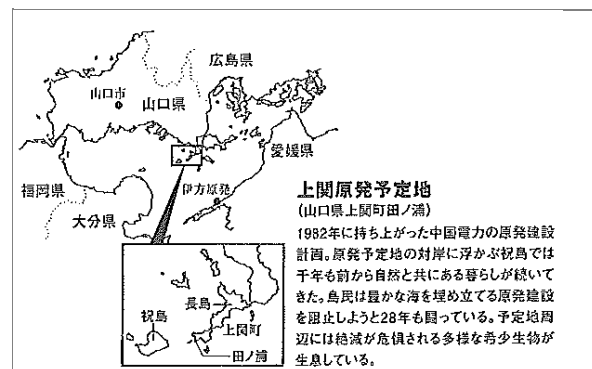
福島原発事故で現実のものになってしまった放射能汚染。今、地方がこの地で生きていく決意を固め、脱成長と地域に必要なだけのエネルギーの自給・自治を取りもどし、汚染された大地と海を再生する手がかりを。

■ここで生きていく決意が世界を動かす 鎌中ひとみ(監督)メッセージ

瀬戸内海祝島では自給自足的な暮らしが営まれ、漁師やおばあちゃんたちがきれいな海を守りたいと28年間も原発建設に反対してきた。島で一番若い働き手、孝くんはエネルギーも自給したいと望んでいる。しかし、圧倒的な経済力と権力が原発建設を推進し続けている。

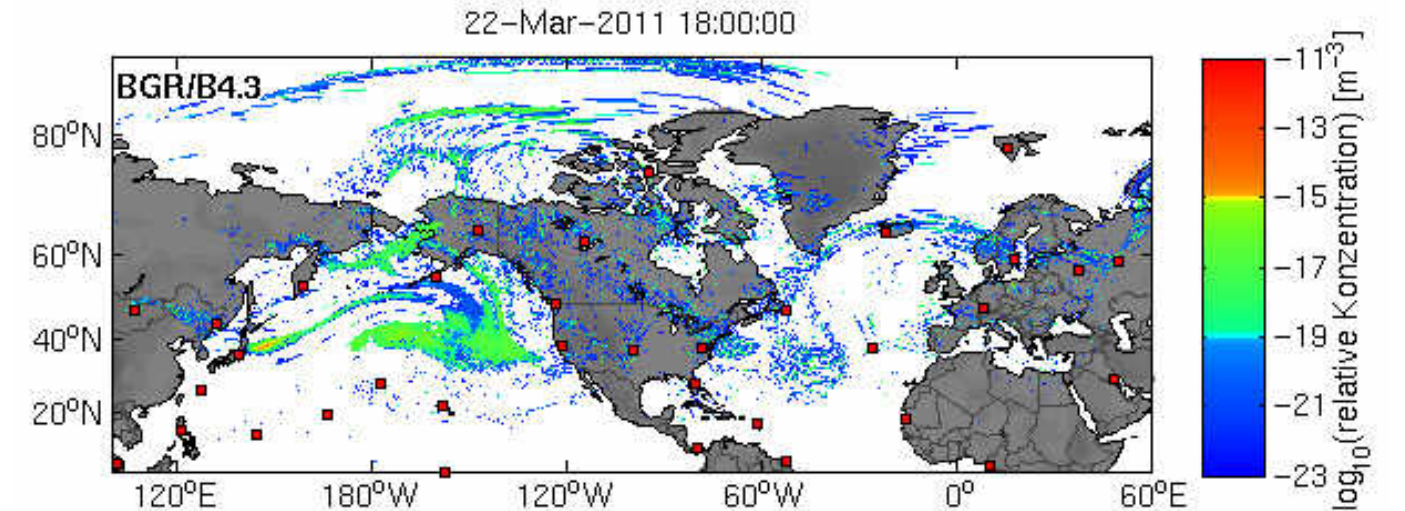
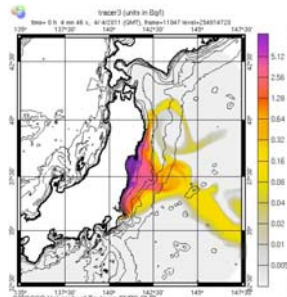
一方、北欧のスウェーデンでは脱石油・脱原発を決め、着実にエネルギーを自然エネルギーにシフトし、持続可能な社会づくりが進んでいる。

どうしたら未来のエネルギーを自分たちの手で選択し、作り出せるのか。私たちと全く同じ普通の人々の感性と思いが国を超えて交差し、新しいビジョンを描きだす。未来を待たずに、今、未来を作り出す現場がここにある。自然と共振し、エネルギーを生み出すミツバチのような人々の羽音が聞こえてくる。



■世界を汚染する福島原発放射能

世界の人々に本当に申し訳ない事だ。日本国は世界に謝罪しなければならない。しかし日本は4/4の放射性廃水の海洋放出もIAEA(国際原子力機関)への通報のみで、まったく国際社会への礼儀さえない。自国民にも、こうした世界への汚染を知らせない。下はCTBTO(核実験全面禁止条約機構:本部ウィーン)による福島からの放射能の拡散のシミュレーション。アメリカ、ヨーロッパを汚染しロシア・中国を経て北半球をすでに数周している。右は、フランスによる海洋汚染シミュレーション



日本有機農業研究会主催 放射能汚染から大地を再生させる有機農業・現地交流集会

【日時】5月17日(火) 13:30~

【会場】福島県田村郡三春町 三春交流館「まほら」

森も里も海も放射能で汚染された。とりわけ、落ち葉を集めて堆肥を作り土作りをし、エネルギーを浪費せずに自給の資源を活用し、自然の循環を生かす有機農業は大きな影響を受ける。しかし有機の土壌は塩基置換能力や緩衝能にすぐれ、カリウムと同じ挙動をするセシウムを吸着する力を持ち、野菜の吸収を抑制する。

土壌の除染をどうすすめるか...有機農業運動35年の歴史を持つ船引町有機農業研究会を中心に、郡山の有機農業研究会、福島各地の有機農業者、茨城有機農業研究会をはじめとする関東のメンバーが集い、現地激励・支援を兼ねて大地の再生計画を討議する。生協の山木屋牧場高橋さんもお呼びする予定。

組合員でもし参加可能な方がいらっしゃいましたら、生協本部までご連絡下さい。ごいっしょします。

震災・放射能汚染 復興チャリティー映画会 チケット申込書(下記)・会場案内図

(会場)つくば国際会議場 茨城県つくば市竹園2-20-3 tel/029-861-0001

つくばエクスプレスつくば駅下車。ひたち野牛久駅または土浦駅からバス25分つくばセンター下車。歩行者専用道路(ペDESTリアンデッキ)徒歩8分。車で来られる方は南3・4AB駐車場に。



東日本大震災・福島原発汚染 復興支援チャリティー映画会

チケット(前売券)申込書

大人 前売 1,300円 (高校生以下無料)

コース名 班名 氏名

枚数 大人 人(×@1300円) = 円

※この申込書と現金を封筒に入れ供給担当まで